

平成27年度
学校評価報告書

四天王寺学園中学校
学校評価検討委員会

目 次

| | |
|-----------------|----|
| 1. はじめに（校長） | 2 |
| 2. 学園建学の精神と教育理念 | 4 |
| 3. 自己評価集計結果分析 | 5 |
| 4. 学校関係者評価 | 13 |

学校の裁量が拡大し、自主性・自律性が高まる上で、その教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことにより、生徒がより良い教育活動を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上とその保障を図ることが重要であります。

また、学校運営の質に対する保護者の関心が高まる中で、学校が適切に説明責任を果たすとともに、学校の状況に関する共通理解を持つことにより相互の連携協力の促進が図られることが期待されます。

これらのことから、学校の教育活動やその他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校及び設置者等が学校運営の改善を図ること、及び、評価結果等を広く保護者等に公表していくことが求められます。

学校評価は、以下の3つを目的として実施するものであり、これにより生徒がより良い教育活動を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指すための取り組みであります。

- ① 各学校が、自らの教育活動やその他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民などから理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力により学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

* 学校評価の定義

- (1) 各学校の教職員が行う評価【自己評価】
- (2) 保護者や地域住民などの学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価【学校関係者評価】
- (3) 学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況もふまえつつ、教育活動やその他の学校運営の状況について、専門的視点から行う評価【第三者評価】

この定義に基づいて、本校の学校評価とは具体的には

- (1) Plan (目標設定)：前年度の評価活動の反省を踏まえ、重点目標の設定

(2) Do (実行) : 重点目標の具体的な取り組みおよびその内容

(3) Check (点検) : 学校教育自己診断の結果と分析

(4) Action (行動) : 評価結果の検証と次年度目標への反映

のPDCAサイクルに基づいて教育活動を展開していくことです。これらを実践する事によって、「学校評価ガイドライン」に掲げられている上記の目的を達成していくものです。

本校は平成26年度4月に学校評価検討委員会を設置し、「学校教育法」及び「学校教育法施行細則」に基づき、学校評価として、自己評価と学校関係者評価を実施いたしております。平成27年度は、平成28年1月から2月にかけて行った生徒対象の授業評価アンケートと教員対象の自己評価を分析し、この「自己評価」を、後援会の方に検討していただき、「学校関係者評価」をいただきました。

本校は、「学校関係者評価」を真摯に受け止め、建学の祖、聖徳太子の「和のご精神」に基づき、信念ある人間の育成に力を注ぐとともに、保護者・地域社会・学校の相互連携のもとで、これからの社会変化に対応できる生徒を育成する教育を追及してまいります。

学園建学の精神と教育理念

学校法人四天王寺学園は、大正11年（1922年）聖徳太子1300年御忌の記念事業の一環として、世の平和と人々の繁栄を願い、聖徳太子の「和を以って貴しとなす」（十七条憲法第一条）という「和」のご精神を礎とし、勝鬘婦人を範とする人間教育を目的として設立され、

【1】 一切衆生悉有仏性→おおよそ生あるものに対するものを慈しむ心

【2】 人皆宇宙法界の縁に拠る→あらゆるものに対する感謝の心

など、仏の心を自然に体得出来るように、教科学習・学校行事・生徒会活動などが、学校生活の中に工夫され編成されている。

建学の精神は、「敬田院設立の精神」に示される「帰依渴仰 断悪修善 速證無上大菩薩」であり、菩薩のような人間像を範とする人間の育成によって、平和国家の実現と世の人々の幸福づくりを希求するものである。調和を目指す円満なる仏の境地である、「和の精神」を率先垂範できる人間を、世に送り出す教育こそが、尊い社会的使命・役割であり、教育理念である。

四天王寺学園中学校生徒・教職員の日々の活動は次のとおりである。

(1) 朝な夕なガレリアにおいて、お釈迦様誕生のレリーフに向かって礼拝する。

(2) 聖歌を斉唱する。

(3) 『般若心経』を読誦する。

(4) 学園訓を斉唱する。

一つ 和を以って貴しとなす

一つ 四恩に報いよ

四恩とは 国の恩 父母の恩 世間の恩 仏の恩なり

一つ 誠実を旨とせよ

一つ 礼儀を正しくせよ

一つ 健康を重んぜよ

(5) 豊かな知識が、豊かな心に繋がるよう仏教教育を取り入れている。

(6) 将来の高等教育に向けて、豊富な中等教育のカリキュラムを編成している。

(7) 「人と人との和」「人と物との和」「人と仕事の和」など、その実践に教科活動はもちろん、学校行事・クラブ活動に積極的に取り組んでいる。

以上の学園の教育方針により、生徒本人の資質・能力を伸張し、円満でかつ心優しい「慈悲共生」の実践できる信念ある人間の育成を目指している。

学校評価の取り組みとして、建学の精神の具現化はもとより学園訓が掲げる真摯な教育方針の徹底を目標とする。

平成27年度自己評価集計結果分析

➤ 四天王寺学園中学校教育方針

- 日本のリーダーとして活躍できる強い精神力の育成
- 規律正しく、厳しさを備えた人格の形成
- 将来希望する世界に力強く雄飛し得る学力の養成

➤ 今年度重点目標 (Plan)

- 挨拶の励行・校内の美化・規律正しい生活習慣の確立を図る
- 生徒の夢・希望を実現するための進路指導
- 高い志と挑戦する意欲を醸成するための確かな学力を身につける教育活動の推進
- 広く教育活動を公開し、保護者の信頼と期待に応える学校づくり

➤ 集計結果と分析

(1) 実施対象 回答教諭人数：13名

回答生徒人数：107名

(2) 評価 1：「あてはまる」、2：「ややあてはまる」、3：「あまりあてはまらない」、
4：「あてはまらない」の4段階

(3) 評価点の算出式： $5 \times (\text{「はい」の}\%) + 4 \times (\text{「どちらかといえばはい」の}\%) + 2 \times (\text{「どちらかといえばいいえ」の}\%) + 1 \times (\text{「いいえ」の}\%)$

1. 学校運営 (評価の目標点 4.0)

| | DO (実行) | 評価点 27年度 | 評価点 26年度 | 評価 | | | |
|---|--|-------------|-------------|-------|-------|----|----|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 1 | 建学の精神を理解し、教育活動に努める。 | 4.7 | 4.5 | 69.2% | 30.8% | 0% | 0% |
| 2 | 会議や委員会などに積極的に参加する。 | 4.6 | 4.3 | 61.5% | 38.5% | 0% | 0% |
| 3 | 同じ学年・教科・分掌の教員間で連携するように努める。 | 4.5 | 4.3 | 53.8% | 46.2% | 0% | 0% |
| 4 | 生徒の校内安全（不審者対応・事故発生時の対応等）について、すべきことを認識する。 | 4.5 | 4.1 | 53.8% | 46.2% | 0% | 0% |
| 5 | 本校の施設・設備の充実に努める。 | 4.7 | 4.4 | 69.2% | 30.8% | 0% | 0% |

| | | | | | | | |
|----|--|-----|-----|-------|-------|-------|------|
| 6 | ホームページ等を活用し、教育活動や生徒の学校生活についての情報発信に努める。 | 4.7 | 4.1 | 69.2% | 30.8% | 0% | 0% |
| 7 | 学校行事に際して、近隣住民への説明を十分に行う。 | 4.5 | 4.3 | 61.5% | 30.8% | 7.7% | 0% |
| 8 | 防災訓練を実施し、生徒の防災意識を高める。 | 4.8 | 4.4 | 84.6% | 15.4% | 0% | 0% |
| 9 | 保護者への連絡や情報公開を適切に行う。 | 4.4 | 4.3 | 61.5% | 30.8% | 0% | 7.7% |
| 10 | 健康・安全に対する意識を高めるよう、機会をとらえて情報を提供する。 | 4.6 | 4.1 | 76.9% | 15.4% | 7.7% | 0% |
| 11 | 学校見学などを通して、情報公開を行う。 | 4.8 | 4.5 | 76.9% | 23.1% | 0% | 0% |
| 12 | 個人情報保護の指針が守り、個人情報を適切に扱う。 | 4.3 | 4.4 | 61.5% | 23.1% | 15.4% | 0% |

【分析および改善方法】(Check・Action)

- ・項目1において、1と2の回答の合計が100%となっており、本校の建学の精神を礎とし、日々の教育活動を行っていると考えられます。
- ・項目2と3において、1と2の回答の合計は100%で、評価点も昨年より上がっていますが、共に2の回答の割合がやや高いので、より積極的に参加し、情報を共有できるような、会議の内容・進行に努めていきます。
- ・項目4において、5月に教職員対象不審者対応の講習を受け、その成果は数字に出っていますが、すぐに判断する・すぐに動けるという水準にまで達していないと思われます。講習を受けるだけでなく、様々なケースを各自が日頃から想定し、動けるようにしていきます。
- ・項目5において、本校の施設・設備の満足度が高いことがわかります。今後も本校の素晴らしい設備を、教員が生徒の教育活動に意欲的に利用できるようにしていきます。
- ・項目6と11において、新設したHP係を中心とした情報発信の成果が表れています。本校の教育活動や生徒の様子を、今後もより広く正確に公開していきます。
- ・項目7において、行事ごとにその趣旨・内容の説明を行い、近隣住民の方の理解を得ようとしています。今後も近隣住民の方の理解のもと教育活動を円滑に行えるようにしていきます。
- ・項目8において、年に2回防災訓練を実施し、その前後にワークシートによる学習をすることで、生徒の意識を高めています。来年度以降も継続し、防災への意識をより高めていきます。
- ・項目9においては、昨年度とあまり変わっておりません。今後はより、保護者と密に連絡をとり、厚い信頼を得られるよう努めていきます。
- ・項目10において、毎月保健室から保健便りを発行しており、その時期に見合った内容を生徒に伝えております。生徒が健康で安心できる学校でいられるよう、今後も情報を提供していきます。
- ・項目12において、個人情報の扱いについて個人差がみられます。教員が共通の認識ができ、正確な取扱いができるよう、努めていきます。

2. 教育内容 (評価の目標点 4.0)

| | DO (実行) | 評価点 27年度 | 評価点 26年度 | 評価 | | | |
|----|--------------------------------------|-------------|-------------|-------|-------|-------|------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 1 | 授業研究を十分に行う。 | 4.5 | 4.5 | 53.8% | 46.2% | 0% | 0% |
| 2 | 必要に応じて予習・復習・提出物の状態を把握し、指導する。 | 4.2 | 4.6 | 53.8% | 30.8% | 7.7% | 7.7% |
| 3 | 人権教育に関して生徒の意識を高めるように指導する。 | 4.2 | 4.1 | 53.8% | 30.8% | 15.4% | 0% |
| 4 | 提出物・小テストを通じて、各生徒の課題を学年で共有し、解決する。 | 4.1 | 4.5 | 61.5% | 15.4% | 15.4% | 7.7% |
| 5 | 文化祭・体育祭・宿泊学習などの行事を通して、生徒の学校生活を充実させる。 | 4.5 | 4.4 | 53.8% | 46.2% | 0% | 0% |
| 6 | 部活動を通して、生徒の学校生活を充実させ、社会性を身につけさせる。 | 4.5 | 4.0 | 46.2% | 53.8% | 0% | 0% |
| 7 | 進路指導を計画的に行い、進路希望を実現しようとする生徒の意識を高める。 | 4.3 | 3.6 | 46.2% | 46.2% | 7.7% | 0% |
| 8 | 生徒の進路選択に役立つように適切な情報の提供や資料作成に努める。 | 4.2 | 3.5 | 53.8% | 30.8% | 15.4% | 0% |
| 9 | 授業時間を厳守し、生徒にも同様の指導をする。 | 4.8 | 4.5 | 75% | 25% | 0% | 0% |
| 10 | 生徒1人1人の到達度に関して、適切な評価基準に基づく評価が行う。 | 4.3 | 4.3 | 53.8% | 38.5% | 0% | 7.7% |

【分析および改善方法】(Check・Action)

- ・項目1において、1と2の回答の合計が100%です。教材研究を十分した上で授業がおこなわれていると考えられます。
- ・項目2において、1と2の回答の合計が84.6%です。生徒の学習状況をおおよそ把握できていると考えられます。特に復習に関しては、生徒たちの状況をより深く把握していきます。
- ・項目3において、1と2の回答の合計が84.6%です。多くの教員が、人権教育に対する深い配慮を行っていると考えられます。これを基に生徒の意識付けをより一層行っていきます。
- ・項目4において、1と2の回答の合計が76.9%で、生徒の学習状況の把握に努めていると考えられますが、3と4の回答の合計が23.1%であることから、各生徒の課題を教師間で共有できていない点もあると考えられます。このことから、生徒個々への勉学に対する目配りをより一層していきます。
- ・項目5において、1と2の回答の合計が100%です。行事を通して学校生活を充実させること

はほぼ行われていると考えられます。

- ・項目6について、1と2の回答の合計が100%です。部活動を通しての人間形成は、ほぼ行われていると考えられますが、より一層、勉学と部活動の両立を図っていきます。
- ・項目7と8において、1と2の回答の合計が項目7で92.3%、項目8で84.6%です。これは、中1と中2がともに、手帳などを用いた将来に対する意識づけや計画立てが行われていること、大学生による進路講話などによる進路に対する意識を高めるための試みや情報提供が行われていることによると考えられます。今後もより一層行っていきます。
- ・項目9について、1と2の回答の合計が100%です。授業時間を大切にすること意識づけはできていると考えられます。
- ・項目10において、1と2の回答の合計が92.3%です。本年度から始めた習熟度別クラス編成も含め、適切な評価がほぼできていると考えられます。

3. 生徒指導 (評価の目標点 4.0)

| | DO (実行) | 評価点 27年度 | 評価点 26年度 | 評価 | | | |
|---|--|-------------|-------------|-------|-------|-------|------|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 1 | 相手を思いやる態度を育て、相互の信頼を深めることで良好な人間関係を築くよう指導する。 | 4.5 | 4.2 | 61.5% | 30.8% | 7.7% | 0% |
| 2 | 挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努める。 | 4.7 | 4.4 | 69.2% | 30.8% | 0% | 0% |
| 3 | アンケートや個別面談を通して、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応を行う。 | 4.2 | 4.1 | 46.2% | 46.2% | 0% | 7.7% |
| 4 | 校内の美化および生徒の健康管理に注意し、安全な学校生活を送れるよう配慮する。 | 4.5 | 4.1 | 53.8% | 46.2% | 0% | 0% |
| 5 | 目の前にいる一人ひとりの生徒に向き合い、支援する。 | 4.5 | 4.5 | 53.8% | 46.2% | 0% | 0% |
| 6 | 生徒の問題行動に対して組織的に対応する。 | 4.2 | 4.0 | 53.8% | 30.8% | 7.7% | 7.7% |
| 7 | 生徒への指導について、保護者への報告を適切に行う。 | 4.2 | 4.1 | 53.8% | 30.8% | 15.4% | 0% |
| 8 | 生徒指導は『教員全員で』という意識をもって実践する。 | 4.5 | 4.4 | 46.2% | 53.8% | 0% | 0% |
| 9 | 生徒が、自ら計画を立て、行動できるように指導する。 | 4.6 | — | 61.5% | 38.5% | 0% | 0% |

【分析および改善方法】(Check・Action)

- ・項目1において、1と2の回答の合計が92.3%です。和の精神に基づき、生徒の言動に注意を払い、必要に応じて指導することを通して、ほぼ達成されていると考えられます。
- ・項目2において、1と2の回答の合計が100%です。ギャラリーでの合掌、礼儀を正しくすることなどを意識していることがわかります。また、チャイムと同時に授業の開始を意識して取り組んでおり、ほぼ達成されていると考えられます。
- ・項目3において、1と2の回答の合計が92.4%です。アンケートを実施し、事実確認を行い、情報を共有することを通して、概ね達成されていると考えられます。いじめ防止のための啓発を積極的に行い、アンケートの結果の向上につながるようにしていきます。
- ・項目4において、1と2の回答の合計が100%です。空気清浄器の設置、AEDの設置とその使用法の講習を実施しています。学園訓「健康を重んぜよ」に基づき、手洗い・うがい・換気などの指導を日々行い、ほぼ達成されていると考えられます。
- ・項目5において、1と2の回答の合計が100%です。学期ごとに各クラスで個人面談を実施しており、学習面では、日々の放課後学習を通して生徒の学習を支援していることでほぼ達成されていると考えられます。
- ・項目6において、1と2の回答の合計が84.6%です。学年と生徒指導部が連携し、問題に対処しており、また、「いじめ防止基本方針」など諸問題に対して学校全体で問題を解決する姿勢で臨んでいることでほぼ達成されていると考えられます。問題行動の事後指導を通して、全生徒への啓発も行っていきます。
- ・項目7において、1と2の回答の合計が84.6%です。主に学級担任を通して事象とその指導内容を保護者に連絡しており、概ね達成されていると考えられます。学級担任だけでなく、生徒への指導の内容を学年全体で共有し、保護者への説明にくいちがいがいがないようにしていきます。
- ・項目8において、1と2の回答の合計が100%です。職員会議で共通理解を持って何事にも臨むという姿勢を確認しているため、ほぼ達成されていると考えられます。
- ・項目9において、1と2の回答の合計が100%です。手帳を利用して、目標を定め、予定を確認し、計画を立て実行し、日々の振り返りをするように指導していることでほぼ達成されていると考えられます。

4. 生徒授業評価 (評価の目標点 4.0)

(注釈) 本項目は、生徒による各自および教員に対する評価であり、平成 27 年度より実施したものであるため、平成 26 年度の評価点は掲載されていません。

| | 評価項目 | 評価点 27 年度 | 評価 | | | |
|----|-------------------------------------|--------------|-------|-------|-------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 1 | 予習をしてから授業に臨んでいる。 | 3.6 | 35.5% | 34.8% | 17.9% | 11.9% |
| 2 | 授業後に復習をしている。 | 2.8 | 10.2% | 32.9% | 36.4% | 20.4% |
| 3 | すぐに授業が受けられるように準備 (教科書・プリントなど) している。 | 4.5 | 69.4% | 23.6% | 5.2% | 1.9% |
| 4 | 授業に集中して取り組み、自分自身で考えようと努めている。 | 4.0 | 37.9% | 43.2% | 16% | 3% |
| 5 | 授業でわからなかった点は質問している。 | 3.1 | 25.3% | 28% | 26.4% | 20.3% |
| 6 | 授業の開始、終了時間は定刻通りである。 | 4.4 | 68.4% | 21.5% | 6.7% | 3.4% |
| 7 | 授業中の説明の声は十分に聞こえている。 | 4.6 | 74.8% | 18.3% | 4.4% | 2.5% |
| 8 | 先生の説明はわかりやすい。 | 4.1 | 54.5% | 27.5% | 10.9% | 7.1% |
| 9 | 板書・プリントなどは工夫されている。 | 4.2 | 53.4% | 30% | 11.4% | 5.2% |
| 10 | 先生の熱意が感じられる授業である。 | 4.2 | 54.8% | 31.8% | 9.1% | 4.3% |
| 11 | 興味・関心がわき、もっと学びたいくなるような授業である。 | 3.7 | 36.8% | 36.3% | 17.8% | 9.1% |
| 12 | 先生は生徒の質問を大切にしている。 | 4.1 | 52.7% | 29.7% | 11% | 6.5% |
| 13 | 授業の進む速さは理解するのにちょうどよい速度である。 | 4.0 | 47% | 31.7% | 12.8% | 8.4% |

【分析および改善方法】(Check・Action)

- ・項目 1 の結果から、授業前の準備については予習が必要な科目についてはほぼ予習できているように思われますが、更に予習プリントを作成する等、予習をよりきちんと行えるよう工夫していきます。また、項目 3 の結果から、授業に臨む準備はできているようです。
- ・項目 2 の結果から、授業後については、予習がほぼできているという結果に対して、復習がほぼできている生徒は 43% しかいないことがわかります。必ずしも復習を必要としない科目があることを考慮しても、復習していると答えた生徒が 10% 程度しかなく、復習していない生徒も 20% を占めることから、宿題も含めた復習不足が心配されます。わからなかったところについても項目 5 からほぼ質問できている生徒が 5 割強にとどまっていることから、授業後に学習した内容を確認する作業が不足している生徒が多く見受けられました。今後は、復習が出来るような適切な宿題、適切な指示を生徒に伝えていきます。
- ・項目 3・8・9 の結果から、概ね生徒は授業に前向きに臨む姿勢がとれており、授業で提供されている内容を理解できる環境が整っていると考えられます。今後も授業内容の充実を図り、

この環境を向上させていきます。

- ・項目4の結果から、授業中については、80%程度の生徒はほぼ集中できているようですが、集中していると答えた生徒の割合が、回答1の方が、回答2より下回っていることと、あまり集中できていない生徒も16%に達することから、より一層授業に集中させるよう授業研究に努めていきます。
- ・項目6・7・10・12の結果から、教員は常に熱意を持って、日々の授業に取り組んでいることがわかります。
- ・項目5・11の結果から、教員は授業に向けての工夫を考えて行っていることがわかりますが、その一方で授業を聞いて、その内容がきちんと理解できておらず、その結果としてその科目に対する興味や関心が薄れていく生徒の割合がやや多いことも読み取れます。教員は、より授業研究をし、アクティブラーニングなどを積極的に取り入れて、生徒が能動的に学習できる環境を作っていきます。
- ・項目13の結果から、習熟度別授業を行っている成果が出ています。今後も生徒の理解度に応じて、緩急をつけた授業を心がけていきます。

【総括】

平成27年度の学校評価を実施いたしました。以上のように4段階での評価をいたしました。今後の方向性・改善点をお知らせいたします。評価は、教員の自己評価3部門、31項目および生徒による授業評価では生徒に対する質問5項目と教員に対する質問8項目にわたっております。

「学校運営」の項目では、概ね良好との評価を頂戴いたしておりますが、今後もより一層学年間の連携、担任間の連携、授業担当者の連携を深め、教員会や学年会議、教科会議等の活性化を図ってまいります。生徒の校内安全においては、5月に不審者対応の防犯講習を実施致しました。今後も必要に応じて、防災訓練や救急法の講習などを実施していきます。また、校門に守衛を配置し、玄関には防犯カメラを設置し、監視体制を整えており、学内の危険箇所の点検を行い、対策改善を行っています。さらに、緊急連絡方法として、「ミマモルメ」を導入し、緊急時の保護者への連絡等に活用しています。

「教育内容」の項目では、各教科の授業においては、一人ひとりの教員が自分の担当教科指導には責任を持って取り組んでおりますが、現在の指導に満足することなく向上する意識をもって授業に臨むように努力していきます。人権教育においては、教員間でも意見交換を行い必要な共通認識を持って、今後もより一層普段の教育活動の中で、人権意識の向上に努めるよう努力してまいります。また、平成26年度に策定された本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、継続して学内のいじめの予防と撲滅に努めてまいります。進路指導面においては、進学進路対策部を新設し、大学入試の変革に対応した学習環境の整備のために、教員対象にアクティブラーニングに関する講習を実施し、生徒に対しては、現役大学生を講師として進

路講話を開き、生徒の進路に対する意識を高めてまいりました。今後も引き続き、個性や能力に応じた進路指導の充実を図ってまいります。

「生徒指導」の項目では、全体を通して1と2の回答が8割を超えており、教員が達成感を持って教育活動に従事していると考えられます。教員数・生徒数ともにまだ少ないですが、今後、増加していく中でも、このような手応えを感じて教育活動を進めていくことができるように努めてまいります。具体的な指導として、生徒が自主的に自分の行動を考えていく習慣をつけるための手帳の利用があげられます。今年度の取り組みとして、1年生に対しては宿泊学習で手帳の利用の仕方の講習を実施し、全校的にはクラス担任を中心に定期的に手帳を回収し、点検、指導することを実施致してまいりました。また、保護者との連携は、保護者会、保護者面談を通じて、家庭と学校の連携は深まっており、日頃から、保護者との信頼関係を大切にしながら、生徒への指導を一層深めていきたいと思っております。生徒対象の授業評価では、生徒の学習習慣の確立を一番に考えて、教員と生徒が一体となって、授業・放課後学習・家庭学習・勉強方法を振り返り、より良い試みを実施します。その取り組みとしましては、放課後学習では、各教科の教員が「今週のおすすめプリント」を作成しております。これを基にチューターが生徒に対して授業のポイントを押さえた指導ができるようにし、生徒の理解力を高めるように努めております。また、生徒の学習意欲を高めていくことができるような取り組みを教科と学年の間で連携を取りながら実施してまいります。

私たち四天王寺学園中学校教職員は、聖徳太子の「和のご精神」を常に心がけ、聖徳太子の敬田院設立の精神を礎に、保護者の皆様が大切に育てられましたお子様を「たくましく教養豊かな人」へと育てます。それこそが、聖徳太子が強く願われた世界の平和や人々の繁栄に貢献するリーダーの育成に貢献しうるものと確信し実践いたしてまいります。

平成27年度 学校関係者評価

四天王寺学園中学校

後援会会長 福井 薫

① 学校運営について

・項目1について、保護者の多くは学校説明会の場でお話しいただいた「建学の精神」「教育理念」に強く共感、賛同し、子供たちにご指導いただける「人間教育」に期待を持っております。そのことを、教育現場の第一線に立つ先生方にはご理解いただき、今後、評価1の割合がさらに上がっていくことを望みます。

・項目3について、評価2の割合が、他の項目に比べてやや多いという結果となりました。先生間の情報、連携不足によって生徒の学校生活に影響がないよう、先生方には日頃から、教科、学年、部活動、その他の担当業務、等々の枠を超えてさらに連携を密にさせていただき、情報の共有化を図っていただきたいと思います。

・項目6について、先生方がどのような思いや基準で教材を選定されているのか、どのような授業をされているのか等、しっかりと伝わる内容で、「四天王寺学園中学校」がよく分かる中身のあるホームページに、4.7ポイントの高評価は納得できます。

・項目8について、大変高い評価となりました。緊急事態の発生時に、生徒一人一人が自分の身を守るための正しい知識を持って、先生の指示に従い冷静に行動できるよう、繰り返し訓練しておくことは、大変ありがたく、心強く感じます。引き続き、ご指導くださいますようお願いいたします。

② 教育内容について

・項目2、4について、評価点が前年度を下回っており、評価も分散しています。先生方が生徒一人一人の、「予習、復習、提出物、小テスト」の状況を把握していただけているか、把握していただけていないならどの項目か、そしてそれを先生間で共有していただけているか、いただけていないのか、また、その状態を踏まえて、生徒一人一人に指導していただけているかどうか、生徒は解決できているか、以上の点をそれらの段階で再確認いただき、次年度への改善に繋がっていただきたいと思います。

・項目6について、評価1より評価2の割合が大きいという結果となりました。部活動は、「こつこつと練習を重ねる中で体力、集中力、忍耐力を養う」「先輩、後輩や仲間との人間関係を構築する」「試合や発表の場等を通じて達成感や充足感を味わう」等、様々な面で生徒の将来にとって、大変貴重な経験となる活動だと考えます。しかし、本校は生徒の人数が少なく、クラブの種類が

限られており、入部していない生徒もいます。また、活動内容や活動頻度にも差があります。今後どのようにして部活動を活性化し、充実させていくのか、学園全体の問題として検討し、よりよい方向性を見出していきたいと思えます。

・項目7、8について、前年度と比べ、かなり評価点が上がっていますが、「進路希望の実現」はすべての生徒にとって、「実現する未来」への大きな一歩であることを考えると、生徒たちが真剣に自らの将来と向き合えるよう、今後さらに評価点が上がっていくことを望みます。

③ 生徒指導について

・項目1、3について、本校は聖徳太子様の「和」のご精神を礎とした「仏教教育」「人間教育」にも力を注ぐ学校です。保護者は、すべての生徒たちが相手の個性や立場を尊重し、思いやりの心を持って育っていくことを強く望んでいます。今後、評価1の評価が100%に近づくことを期待します。策定されている「いじめ防止基本方針」どおり、「いじめは絶対に許さない」という風土づくりと、未然に防ぐためのあらゆる対策を講じていただきますようお願いいたします。

・項目6、7については評価が分かれる結果、項目8については評価2の割合が評価1を上回る結果となりました。今以上に、担任の先生、学年主任の先生、教科担任の先生、また生活指導の先生や部活動の顧問の先生等、多方面の先生から様々な機会にお声かけや励まし、継続的なご指導をいただけますようお願いいたします。

・項目9について、生徒が「目標を持って自ら計画を立て、実行する」ことで、自主性や計画性、行動力等を養うことができると思えます。これは近い将来、生徒たちが経験する受験においても、また社会人となってからも必要不可欠な力だと思えますので、評価1の割合が高く、先生方が熱心にご指導くださっているという結果に大変感謝いたします。今後も、手帳のチェックや実践状況の把握、また適切なアドバイス等を通じて、生徒たちの力をさらに伸ばしていただきますようお願いいたします。

④ 総括

・ほとんどの項目において、「評価1」の割合が最も高く、次いで「評価2」が高いという結果となりました。特に評価1と評価2だけで100%となる項目が、「学校運営」で12項目中8項目、「生徒指導」で9項目中5項目ありました。これは日頃から熱心に生徒指導にあたってくださいている先生方のご尽力の賜物であると、改めて感謝申し上げます。

「教育内容」については、評価3、評価4に分散しているものが10項目中6項目あり、評価のバラツキが少し目立ちます。今後このバラツキを減らし、評価1、評価2の割合が上がっていくよう先生方の一丸となった取り組みを期待いたします。

・評価点について、ほとんどの項目で前年度を上回っています。特に、「ホームページを活用した学校生活に関する情報の発信」や「進路指導」に関する項目で評価点が大きく上がっています。三年生の高校受験に向けた進路指導に先生方が力を注いでくださっていることや、四天王寺学園高等学校開設に向けた準備が順調に進んでいること等がうかがえる結果だと思えます。

・問題が起こった際の、保護者への説明会をいち早く行う学校の迅速な対応力と、学園訓に掲げられている「誠実を旨とせよ」が実行されている透明性を、身をもって感じております。「保護者との信頼関係を大切にしながら、生徒への指導を一層深めていきたい」と考えていただいていることを、実践してくださる学校の姿勢に、とても安心させられ、大変ありがたく思っております。

発行 平成28年9月28日
四天王寺学園中学校

